令和６年度第２回（第４回）　洞爺湖町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）
策定委員会議事録（要旨）

日時：令和６年１０月１０日（火）13：30～15:00
場所：洞爺湖町役場　３階 防災研修ホール
出席者：

番号	区分	出欠	団体名	氏名
1	学識経験者		酪農学園大学	吉　田　　磨
2	産業団体		とうや湖農業協同組合	佐　藤　憲　一
3	〃		いぶり噴火湾漁業協同組合	福　島　浩　二
4	〃	欠	洞爺湖町商工会	山　戸　準　也
5	〃		一般社団法人洞爺湖温泉観光協会	高　橋　洋　一
6	〃		特定非営利活動法人洞爺まちづくり観光協会	田　所　哲　夫
7	〃		洞爺湖温泉旅館組合	来　栖　正　光
8	教育関係		洞爺湖町校長会	鈴　木　恭　朗
9	金融機関		伊達信用金庫	塙　　郁　馬
10	交通関係		道南バス株式会社	寺　本　信　也
11	エネルギー 供給事業者		北海道電力ネットワーク株式会社室蘭支店	中　田　泰　史
12	その他町長 が認める者		洞爺湖町環境審議会	室　田　欣　弘
13	〃		ウイメンズネットワーク洞爺湖	青　木　佐智子
14	〃		洞爺湖町自治会連合会	吉　田　　聡
15	〃	欠	洞爺湖町自治会連合会	依　田　信　之
16	〃	欠	洞爺湖町自治会連合会	堀　家　　潔
17	行政		洞爺湖町	八反田　　稔
18	〃		洞爺湖町	若　木　　渉
19	一般公募			三　上　みゆき
20	〃	欠		荒　町　美　紀
21	〃			宮　本　　好
―	オブザーバー	欠	環境省北海道地方環境事務所 地域脱炭素創生室室長	田　村　　努
―	〃		北海道胆振総合振興局 保健環境部くらし・子育て担当部長	木　内　武　雄

１．開会

２．委員長あいさつ

吉田委員長：先月、東京大学で行われた環境科学会に行ったが、そこで地球温暖化についての議論もなされた。京都議定書が出された国連気候変動枠組条約第 3 回締約国会議（COP3）の時は、温室効果ガス排出を 1990 年比マイナス 6%という目標だったが、今は 2013 年度比でマイナス 46%、2050 年がプラスマイナス 0 にするという目標になっている。6%削減する状況から半分や 0 にする状況、今議論していることは、当時のマイナス 6%という世界のレベルでは全然到達できないだろうといった話。それから、いわゆる「電気を消しましょう」や「水道を止めましょう」というレベルでは多分達成できないだろうという話がアカデミックな場でもされていた。

私は授業でいろんな話をしているが、もう 1 歩前に踏み込んで、そういう話をしなければいけないなと、学会へ行き刺激を受けてきた。

今日も、洞爺湖町として今後どういう方向に向かっていくかという大事な議論になるので、忌憚のない意見、よろしくお願いする。

３．報告事項

（１）本日の委員会内容と今後の予定について

（２）前回の策定委員会会議資料の一部修正・追加について

○事務局（バイオマスリサーチ㈱）が資料（会議資料【資料 1】の「報告①．本日の委員会内容と今後の予定について」、「報告②．前回の策定委員会会議資料の一部修正・追加について」）をもとに説明・報告を行った。

４．議事事項

（１）洞爺湖町の目指すべき将来像案について

○事務局（バイオマスリサーチ㈱）が資料（会議資料【資料 1】の「議事①．洞爺湖町の目指すべき将来像案について」）をもとに説明を行い、承認された。

【質疑・意見】

●噴火湾の藻場と水力発電について

福島委員：10 年前頃には十分に昆布、ワカメなどがあり、自然の中で生態系が回っていたが、この 5、6 年でよく日本海で言われていた磯焼けが噴火湾でもなると思わなかった。20 年前は昆布、ワカメが色々なものに付着しすぎて除去することが大変だったが、近年は海藻が全くつかない。ウニやアワビが若干増えているが、増えてもウニやアワビが食べる海藻がないため、ウニもアワビも痩せて中身が入らない。今後、人工的に藻場を増やさないといけないのではないか。昔は、森は海の恋人と言われて、

冬に雪が多ければ山からの栄養が多く、生態系が回っていた。噴火湾は恵まれていた。ぜひ自分たちも若者と一緒に一から藻場の再生を行っていきたい。
洞爺湖町は洞爺湖、水資源があるので恵まれている。大正時代にできた水力発電所がブラックアウトした時に他地域の大規模火力発電所への電気供給を行い、大いに活躍した。工夫によっては、太陽光や水力発電は洞爺湖町で使い道があり力を持つのではないか。
吉田委員長：森は海の恋人というのは元々漁師さんの言葉でよく言われる言葉。森を守って海を守っていこうということで、13 ページの産業間の連携の中にもそういう意味合いがまとめられると思う。
小水力発電は再生可能エネルギーの一種で二酸化炭素を排出しないということで非常に注目されている。そのようなことが盛り込まれたのがこの 16 ページの将来像案。

●洞爺湖町全体が調和のとれた将来像について
吉田委員：前回いただいた促進区域の資料には、洞爺地区、温泉地区、虻田地区という風に、くっきりと分かれた案が出てきていたが、自治会関係者としてはすごく抵抗があった。洞爺湖町が合併してから、それぞれの地区をいかに融合するかを工夫してきた。今回のラフ画は洞爺湖町全体が調和のとれた将来像になっているのでよい。
吉田委員長：それぞれの特性を出しつつも、全体でみんなの利益を考えていくという意味合いもこの 16 ページには込められているのではないかと思う。

（２）2050 年ゼロカーボンを達成するための施策、構想の具体案について
〇事務局（バイオマスリサーチ㈱）が資料（会議資料【資料 1】の「議事②. 2050 年ゼロカーボンを達成するための施策、構想の具体案について」）をもとに説明を行い、承認された。

【質疑・意見】
●環境にやさしい包装について
福島委員：洞爺湖町だけの問題ではないが、箱の中に二重にも三重にも包装されているような異常な包装はエネルギーや資源など色々なものが使われていると思う。洞爺湖町から出るものは最小限の包装を謳ってもいいのではないか。お土産をもらっても包装だけでゴミの山になることが多い。釣り道具のプラスチックの包装が海に捨てられていることも多い。自然に戻るような包装などの工夫が必要ではないか。ちり紙も立派すぎるため、なかなか自然に戻らない。タバコはフィルターだけ残る。
今後、色々な形で自然に戻るものを国の方で推奨してもらえればと思う。過剰な包装は必要ないと思う。 できるだけ工夫しながら、海に万が一投げられても、海に溶けるものだとかにしてもらえればいいと思う。

吉田委員長：基本方針の「③自然環境の維持と脱炭素」や「④自然に立脚した観光業の持続可能性向上」と関わってくるところと思うが、どうか。

事務局（洞爺湖町経済部産業振興課）：基本的にはゴミを捨てないということが大事かと思う。町内の事業者に対して簡易包装を呼びかけることで、経費削減など事業者にもメリットがあると思われるので、ごみの出し方などの施策と絡めて推進していければと考える。

吉田委員長：酪農学園大学の白樺祭という学祭では、10 年くらい前に、必ず土に還る容器を使わなければならないという取組を行っていた。そういうことを専門にやるサークルが当時はあり、そのサークルを通して、模擬店を出店するなら必ずその容器を買わなければいけない。ところが、当時はスーパーなどの既製品より３～４倍程度高いため、破綻してしまった。今の時代はもっと安く作れるかもしれないので、そういった取組を町全体で見直していくのもいいと思う。

（３）2050 年ゼロカーボンを達成するためのＫＰＩの設定案について

〇事務局（バイオマスリサーチ㈱）が資料（会議資料【資料 1】の「議事③. 2050 年ゼロカーボンを達成するためのＫＰＩの設定案について」）をもとに説明を行い、承認された。

【質疑・意見】

●中高生対象の学習会について

宮本委員：「②歴史風土を活かした産業の発展」にある「中高生対象の学習会・ワークショップの実施」は、授業の中で組み込むのか、授業外で行うのか。

事務局（バイオマスリサーチ㈱）：今年度実施した学習会は授業内で行ったが、授業外でも可能性はあると思うので、その都度、学校側と町が協議してできればいいと思う。KPI の設定も学校の授業では何回という風にできると思う。

宮本委員：洞爺湖町の特徴として、地域学習を行っていかないといけない理由は火山噴火がある。防災学習で 1 日外に出ている機会も多いため、その中で時間数を確保できるのか町や教育委員会などと協議していただければと思う。

事務局（洞爺湖町経済部産業振興課）：今年度の学習会の実施につきましても、教育委員会並びに各学校と協議させていただいた。当然、宮本委員からも今ご指摘があったように、洞爺湖町の地域特性として、防災学習にも力を入れている。何年生は防災、何年生は脱炭素にかかる授業というような形で、学年を分けることによって、学年ごとにテーマを決めて実施していただいている状況。今年度実施した脱炭素にかかる授業は、学校側からも次年度以降も続けていきたいというお話も伺っているので、教育委員会、学校側と協議して、この事業を継続していただくよう考えている。

吉田委員長：今年度は何の時間で実施したのか。

事務局（洞爺湖町経済部産業振興課）：総合学習の時間で行った。
鈴木委員：虻田中学校では、ふるさと教育の見直しを行っている。学年ごとに火山や洞爺湖の環境について学習があり、洞爺湖の環境を美しくするために二酸化炭素について学んでもらえると良い。今年度は 1 年生に対してゼロカーボン教育を行ったが、可能であれば1年生のふるさと学習の中に組み込んで継続的にやっていきましょうという話を教員と話をしている。他の学校については今後協議していきたいが、本校については継続的に行っていきたい。

●森林整備の実施について
田所委員：「③自然環境の維持と脱炭素」の「（1）計画的な森林整備の実施」で、洞爺湖町はそこまで森林が多くはないと思う。森林整備がやることによる効果はどうなのか。
また、「民有林の整備促進」とあるが、現在は町で実際に行っているのか。
事務局（洞爺湖町経済部産業振興課）：町有林は昨年度から森林譲与税を活用して町民植樹祭を行っている。民有林は森林組合を通じて、補助を実施して整備促進を行っている。ご指摘のとおり、洞爺湖町の森林は行政面積が少ないので、再エネを頑張る計画になっている。

●KPI の指標設定について
木内オブザーバー：KPI の例として、今後太陽光パネルの導入数などを把握していけるのかが心配。一般家庭などの数を把握していけるよう、実際に KPI を指標として設定する際には、本当に把握していけるかを意識しながら設定してはどうかと思う。
「②歴史風土を活かした産業の発展」にある「TOYAKO マンガ・アニメフェスタ等でのキャンペーンやイベントの実施」は、脱炭素に関するキャンペーンやイベントをこのフェスタの中でやるのでイベントの参加者数が指標としてなりうると考えているのか。
事務局（洞爺湖町経済部産業振興課）：ご意見の通り、進捗度合いを評価する上では、把握できる数字が大事になってくると思う。まだ庁内で検討している段階ではあるが、把握可能な数字を指標に載せていきたい。あくまでも現在のところは例というところでご承知おきいただきたい。
事務局（バイオマスリサーチ㈱）：あくまでも案だが、TOYAKO マンガ・アニメフェスタは有名なので、例えばペットボトルを洗って持ってきたら、食べ物 10 円引きチケットと交換できるなど、脱炭素とイベントを絡め、ペットボトルを持ってきた人数などの脱炭素に関わった人数を指標にできるかもしれないと思った。
吉田委員長：把握できるものだけにすると、把握できないものの評価が全くできなくなるし、それによって削減効率が高いものもあると思うので、それを抽出することも

大事だが、どう始めていくか検討していくことを、まずは用意していかないといけないのではないかと思う。色々な話が事前打合せで出てきたので、今後もう少しできることを事務局側でも検討しながら、皆様にお聞きしたりお話していきたいと思う。

（４）2050 年ゼロカーボンを達成するまでのロードマップ案について

〇事務局（バイオマスリサーチ㈱）が資料（会議資料【資料 1】の「議事④. 2050 年ゼロカーボンを達成するまでのロードマップ案について」）をもとに説明を行い、承認された。

【質疑・意見】

●ゼロカーボンパークについて

田所委員：「④自然に立脚した観光業の持続可能性向上」で「(3) 洞爺湖をゼロカーボンパークに」とあるが、ゼロカーボンパークはどのようにしたらなれるのか。

事務局（洞爺湖町経済部産業振興課）：環境省からゼロカーボンパークの条件というものが公表されており、条件は 6 点ある。例えば 1 番目の「ゼロカーボンシティ表明を行っている又はその予定であること」では、洞爺湖町では昨年の 1 月にゼロカーボンシティ宣言をしており、この項目は達成していることとなる。その他に、「脱炭素以外にもプラスチックゴミの削減など、サステナブルな観光地作りに資する取組があること」などがある。決して無理な取り組みではなく、ちょっとした工夫で、条件を達成できればゼロカーボンパークと認定され、それが観光地としての付加価値を生むのではないかと考えている。

吉田委員長：支笏湖のある千歳市では既にゼロカーボンパークを達成しているということで、洞爺湖でも是非達成してほしい。

●目標未達成のペナルティについて

福島委員：目標達成ができなかったり、遅れたりした場合はどうなるのか。旗をあげたことに対して、国が手助け、フォローが必要ではないか。今後どのように考えていけばいいのか。

事務局（洞爺湖町経済部産業振興課）：最終的には 2050 年のカーボンニュートラルということで、あくまでも 26 年先の話になる。現在のところ、国の方から具体的に 2050 年にカーボンニュートラルを達成した町、達成できない町の公表や、達成できないところへのペナルティについての言及はない。

また、参考までとして聞いていただきたいが、洞爺湖町では、国の目標と同じく 2030 年度の目標は 2013 年度比 46 パーセント削減という目標を立てて今現在計画を策定中だが、例えば近隣で言うと、室蘭市では 2030 年度の目標は 2013 年度比 38 パーセント削減という目標を掲げてやっている自治体も中にはある。

いずれにしても、2050 年が一応ゴールということで進んでいるが、ゴール時点で国からの市町村に対するペナルティのようなものは現在のところ公表されていないというところが現状。
福島委員:できれば 10 年前くらいの 2040 年に国の人に再度委員会に入ってもらい、指導や助成、補助などをいただいた方がいい気がする。
吉田委員長：まずは、市町村などの自治体が実行計画を立てて、具体的な実施計画を積み上げ、それを指導し、KPI で評価しながら、計画を実施、評価、再検討を繰り返していくことが推奨されている。それに基づいて色々な補助やサポートが得られると思うので、そういうのを活用しながらだと思う。国が町をサポートし、町が例えば事業者をサポートして、その洞爺湖町の中にある事業者が色々なことをやっていくことで、多分町民 1 人 1 人も動きやすくなってくるかと思うので、町民もそうだが、事業者にも期待したいところだと思う。

●スマート農業と廃棄物回収について
佐藤委員：クリーン農業を盛んに行っており、北海道独自の基準の YES!clean に取り組んでいる。化学肥料や化学農薬を削減した栽培方法で行っているので、今後このクリーン農業がもっと増えていければいいと思うが、今現在、洞爺湖町でクリーン農業に既に取り組んでいる方が約 70%。気候や気温等の情勢で難しく足踏みしている状況のため、これ以上できるのか？と思う。
スマート農業にも徐々に取り組んできており、そこでの効率化が脱炭素という部分で出てくると思うので、スマート農業も増えていけばいいと思う。計画の中にも組み込むことができるのではないか。
ゴミの分別や再利用という部分で、伊達にあるみらい館では、8 時から 17 時まで段ボールや新聞紙、厚紙の回収をプレハブの中に誰でも入れられるようになっている。現在洞爺湖町にリサイクル施設はなく、月に 1 回か 2 回、巡回して回収しているが、そういった、好きな時にまとめて気軽に出せるような場所があってもいいのではないか。
事務局（洞爺湖町経済部産業振興課）：基本方針の①から④に入れようと思うと、スマート農業は、「②歴史風土を活かした産業の発展」の「(4) 革新的技術への積極的な挑戦」という部分に関わってくると思う。また、ゴミの分別収集は、若干分野とずれてしまうが、「④自然に立脚した観光業の持続可能性向上」を観光業だけではなく、広げていかなければならないかと思う。ただ、現状として洞爺湖町の段ボールや新聞紙などの資源ごみは、自治会ごとに月 1 回から 2 ヶ月に 1 回程度、集めて廃品回収を自治会費に活用している取組もある。しかし月 1 回や 2 ヶ月に 1 回だと合わないといった方々に対しても、気軽に分別して出しやすいような環境作りも大切だと感じるため、担当課へご意見を伝える。

吉田委員長：「②歴史風土を活かした産業の発展」の「(4) 革新的技術への積極的な挑戦」にも入るが、産業の発展を目指しつつクリーンな持続可能な町という意味なので、新しい名前に変えてもいいのではないか。歴史風土を活かした産業もそうだが、革新的技術を用いた自然環境への何かなど、ご検討いただければと思う。

●評価対象の事業について

田所委員：このロードマップを進めていく上で、たくさん項目があるが、全て対象にずっと見ていくのか、ある程度できた時にもう充分など判断し、減らしていくのか。

事務局（洞爺湖町経済部産業振興課）：今の委員会は、計画を策定する委員会として、皆様にお集まりいただき、ご意見を頂戴し、議論しながら計画を策定しているところ。計画が策定する次年度以降は、この枠組みを使って具体的な取り組みを評価していく。KPI を達成しているものについては、事業の実施の完了の目途がついたという形になり、なかなか進まないものも評価し、皆様からご意見をいただきながら、次年度以降もこの計画を推進していきたいと考えている。

吉田委員長：もりもりに書いているので、全部ということではないかもしれないが、その事業関係者それぞれで、これだったらできるなどあるかもしれないので、幅広くとるのも悪くはないかと思う。KPI でその先少しずつ評価していくということになろうかと思う。

５．その他

○事務局（洞爺湖町経済部産業振興課）が第５回洞爺湖町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定委員会は 11 月 19 日 13:30 から開催予定であることを説明した。

６．閉会

令和６年度第２回 洞爺湖町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定委員会の様子